

令和6年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	63	学校名	仙台市立太白小学校	校長名	阿部 英徳
------	----	-----	-----------	-----	-------



- 1 取組のタイトル、テーマ
「学びをつなげ、深める環境学習」

2 取組の紹介

第4学年の総合的な学習の時間で取り組んだ、課題解決学習について紹介します。社会科の学習「住みよいくらしをつくる」や、理科の学習「自然のなかの水のすがた」等、環境問題に関わる学習をつなげたり、深めたりすることをねらいとして進めました。『環境日本一仙台』を目指す会の方をお招きして講話をいただいたり、自分たちができる取組を考えて実施したりしました。主な3つの取り組みについて紹介します。

(1) プラスチック用ごみ箱の制作と、全クラスへの配付・呼びかけ

第4学年の教室に2つのごみ箱はありましたが、燃えるごみとプラスチックを分別するものではないことに気付いた児童が、プラスチック専用のごみ箱を作ることを思いつきました。また、全学年分のごみ箱も作り、校内放送で呼びかけることを考え、実施しました。



(2) 落ち葉堆肥化プロジェクト

太白山に囲まれた自然豊かな太白小学校。毎年、秋になると校庭一面が落ち葉で埋め尽くされていました。また、低学年が生活科で使用して残った落ち葉も見付け、これらの落ち葉を再利用できないかと考えました。地域にある工務店（『環境日本一仙台』を目指す会も含）の方に相談し、落ち葉に土や水を混ぜて踏み固める、堆肥化の活動を行いました。約1年で堆肥になることを知り、児童は今後の活動について「野菜や花を育てたい。」「自然のサイクルを循環させたい」と、様々な意見を出していました。



(3) マイ箸づくり

割り箸の使用を控えると、資源を大切にすることにつながると考え、マイ箸づくりを思いつきました。地域の工務店に相談し、廃材をいただいてマイ箸を作りました。



2 取組の成果

環境問題に対して、児童の意識が大きく変化したことを感じます。些細なごみも再利用できないかと考えるようになり、教師もそのアイデアに驚かされることが多くありました。落ち葉堆肥化プロジェクトとマイ箸づくりは、河北新報にも掲載され、全校児童と保護者、地域の方へ発信することができました。